

筆甫中区集落協定 【丸森町】

～ 人と人がつながるふるさとを目指して ～

本地区は、宮城県最南端の丸森町南部の福島県境に位置し、四方を阿武隈山脈の支脈に囲まれ、水稻を中心に野菜も栽培しています。

特産品「へそ大根」の生産や、援農ボランティアによる都市農村交流に積極的に取り組み、地域住民主体で集落の活性化に取り組んでいます。



【組織概要】 ※H29実績

取組開始:平成12年度
構成員:71名
取組面積:44ha
(田35ha, 畑6.2ha, 草地2.8ha)
交付金額:665万円

地域の現状

- 高齢化や人口減少に伴う担い手不足から遊休農地の拡大が懸念され、第1期対策(H12)から取組みを開始。
- 第4期対策からは、高齢化を懸念し取組みを断念していた集落を取り込む形で協定農用地を拡大。
(協定農用地H26年度:21.2ha→ H28年度:44ha)
- 景観作物(ヒマワリ)の作付けや、鳥獣害対策として電気柵の設置等に取り組み、農地を維持管理。
- 東日本大震災の影響で生産・販売が低迷していた特産品の「へそ大根」を復活させようと、管理休耕となっていた農地30aを集落協定で借り受け大根の生産を開始。現在は約50aで作付け、地区の女性を中心に「へそ大根」へ加工し出荷している。



【ヒマワリの種まき】



【大根の収穫】

特色のある取組

- 集落協定の活動を通じて共同作業の体制が強化されたことで、集落の活気を取り戻そうと都市農村交流に対する意識が向上。
- 平成25年度から、県の集落支援事業を活用し、当集落協定を主体に援農ボランティアの受入れを開始。町の指定管理で運営されている「まちづくりセンター」とも連携し、ヒマワリの種まきや、へそ大根用の大根の種まき・収穫等、地域資源を活かした援農イベントを実施。
- こうした援農活動を通じ、地域内外の交流や地域の活動も活発化。集落内部では外部の人を受入れることへの抵抗感が薄れ、それに伴い外部からの応援も増え、継続的なつながりに発展。
- 今後は、交流により得た「筆甫を応援してくれる人とのつながり」を大切に、地区に訪れた人がより筆甫に貢献したいと思えるような活動を、地元主体で続けていき、“参加者と一緒に”さらに筆甫を活性化させていくことが目標。



【集合写真】